

【真理:truth】

真理とは何でしょう。聖書には「真理の書」という言葉が一回だけ出てきます。ダニエル 10 章 21 節『しかし、真理の書に記されていることを、あなたに知らせよう。私とともに奮い立って、彼らに立ち向かう者は、あなたがたの君ミカエルのほかにはいない。』【But I will tell you what is noted in the Scripture of Truth. (No one upholds me against these, except Michael your prince.)】真理の書とは聖書のことを意味するようです。聖書は神の教えとイエス・キリストの教えが書かれており、それが真理だと解釈できます。イエス・キリストのことばで、ヨハネ 14 章 6 節『イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。』【Jesus said to him, “I am the way, the truth, and the life. No one comes to the Father except through Me.】イエス・キリストの教えが真理であり、それと同時にイエス・キリストご自身が真理であると、イエス・キリストご自身が言われます。そして、父である神の元に行くには、イエス・キリストを信じる以外にはないと言われます。世の中には神々と呼ばれるものが多くあります。しかし、それらは真理ではありません。なぜなら、イエス・キリストの教えを教えとしていないからです。真理なる神はいつ、どんな時でも変わることがない正しい方です。私たちが生きているこの世において、正しい道は神によって示されます。ヨハネ 8 章 32 節『あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。』【And you shall know the truth, and the truth shall make you free.”】イエス・キリストを知ることにより、自由にされます。イエス・キリストを知ることが神の正しい道を知ることがであるが、では、何から自由にされるのでしょうか。まず、正しい道について、Ⅱペテロ 2 章 15 節『彼らは正しい道を捨てて、さまよっています。ベオルの子バラムの道に従ったのです。バラムは不義の報酬を愛しましたが、』【They have forsaken the right way and gone astray, following the way of Balaam the son of Beor, who loved the wages of unrighteousness;】ここに書かれている正しくない道とは、不義の報酬を愛することです。今の世界において、多くの人が不義の報酬を求めているのではないのでしょうか。神の義に反抗する堕落した人間社会、不道德な行為、性的な不道德、それらは罪と死に支配された世界です。精神的・霊的な束縛から解放された自由な世界が正しい道です。それは神が定められたもので、人間によって得られるものではありません。では、人間が神の正しい道に歩むためにはどうすればよいのでしょうか。箴言 23 章 19 節『わが子よ。よく聞いて、知恵を得よ。あなたの心が道をまっすぐ進むようにせよ。』【Hear, my son, and be wise; And guide your heart in the way.】正しい道は、まっすぐな道、心がその道に進むためには、まず、聞くこと、そして知恵を働かせること、それによって人は神の正しい道を知ることができます。神の言葉に従う以外にそれを見出すことができません。箴言 14 章 12 節(新改訳)『人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。』【There is a way that seems right to a man, But its end is the way of death.】人は往々にして、自分の考えを正しいと主張します。人は死んだら、皆天国に行けると思っていますか。それで人が死ぬと、天で会いましょう、とか言います。その考えはどこから来ていますか。はっきりと説明できる人がいるのでしょうか。しかし、聖書は、人の考えが正しいように見えても、間違っていて、その終わりには死があると書かれています。箴言 14 章の死は肉体の死ではありません。死んだ後に待っている裁きを言います。永遠の苦しみの死です。真理はこの死からも自由にすることができます。つまり、真理を理解し受け入れることで、精神的・霊的な束縛から解放され、生きている現在も、死んだ後の新しい天、新しい地が現れた時も、自由で充実した時を過ごすことができます。黙示録 21 章 3~4 節『3 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」』【3 And I heard a loud voice from heaven saying, “Behold, the tabernacle of God is with men, and He will dwell with them, and they shall be His people. God Himself will be with them and be their God. 4 And God will wipe away every tear from their eyes; there shall be no more death, nor sorrow, nor crying. There shall be no more pain, for the former things have passed away.”】人が求めるべきことをが書かれています。詩編 25 章 5 節『あなたの真理に私を導き、教えてください。あなたこそ、私の救いの神、私はあなたを一日中待ち望みます。』【Lead me in Your truth and teach me, For You are the God of my salvation; On You I wait all the day.】